

ネットモニター調査結果 - '21年7月期 -

ご協力いただいたモニター数：261社

調査期間：2021年8月2日～9日

《7月の景況判断に関する要点》（図A、図B、図C）

景気は、持ち直し基調のもと、 第5波の影響で足踏み

- 7月の景況（前月比）をみると、「上昇・好転」の割合は3.9ポイント下降して20.3%、「下降・悪化」は1.5ポイント下降して23.4%となり、DIは、2.4ポイント下降して-3.1となった。
業種別DIは、製造業では、4.6ポイント下降して5.5となり、非製造業では、横ばいの-9.2となった。
- <上昇・好転要因>は、「内需が増大したから」が52.8%と半数を超え、次いで「時期的、季節的な要因で」が37.7%、「他社との競合の状況で」が17.0%となった。
- <下降・悪化要因>は、「内需が減少したから」が60.7%と最も高く、次いで、「新型コロナウイルス感染症の影響で」が49.2%と約半数を占め、「時期的、季節的な要因で」が27.9%となった。
- 3ヵ月後（10月）の見通しは、「上昇・好転」が1.5ポイント下降して28.7%、「下降・悪化」が4.9ポイント上昇して22.6%となり、DIは6.4ポイント下降して6.1となった。
- 7月の前年同月比は、「上昇・好転」が1.1ポイント上昇して26.8%、「下降・悪化」が3.0ポイント下降して31.0%となり、DIは4.1ポイント上昇して-4.2となった。
業種別DIは、製造業は9.2ポイント上昇して10.0、非製造業は1.2ポイント上昇して-14.6となった。

注：ネットモニター調査は、2019年4月から大阪市経済戦略局と（公財）大阪産業局が共同実施しており、両調査の回答を集約のうえ、とりまとめて結果を公表しております。

図 A 景況判断

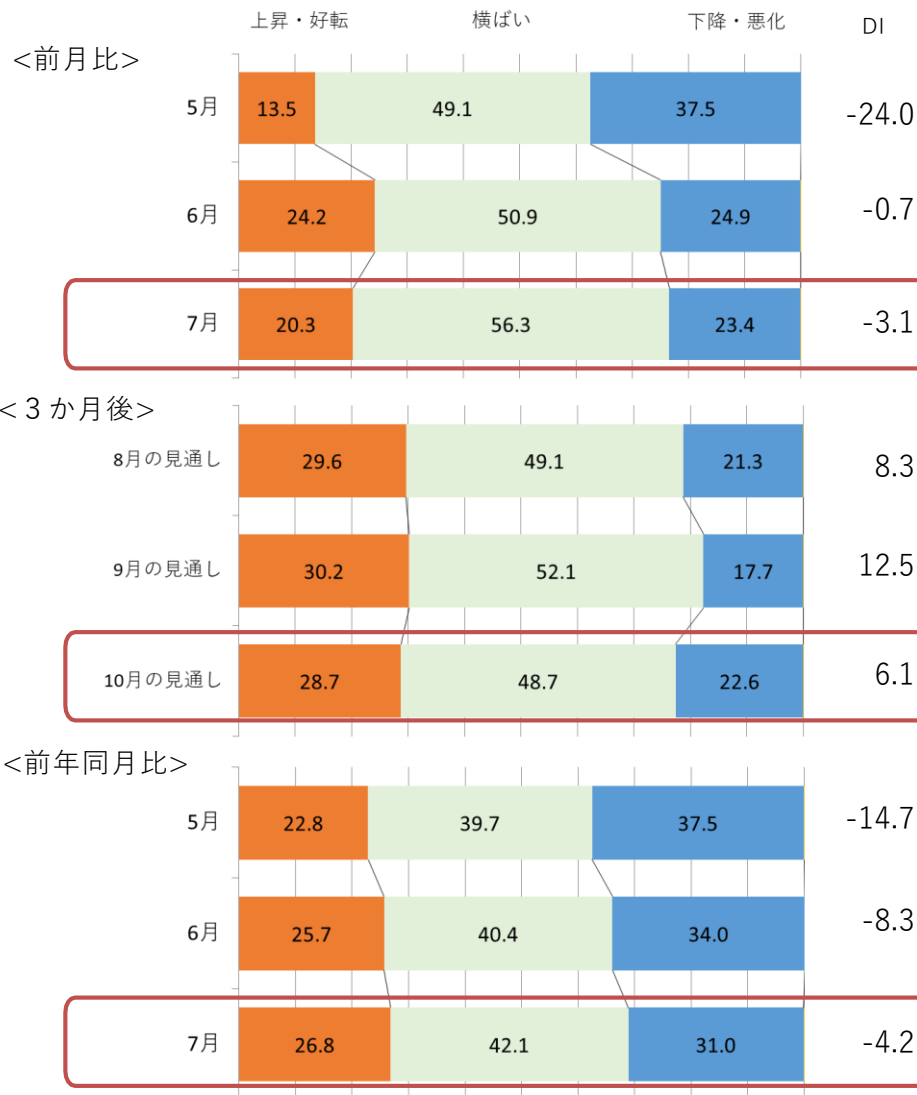
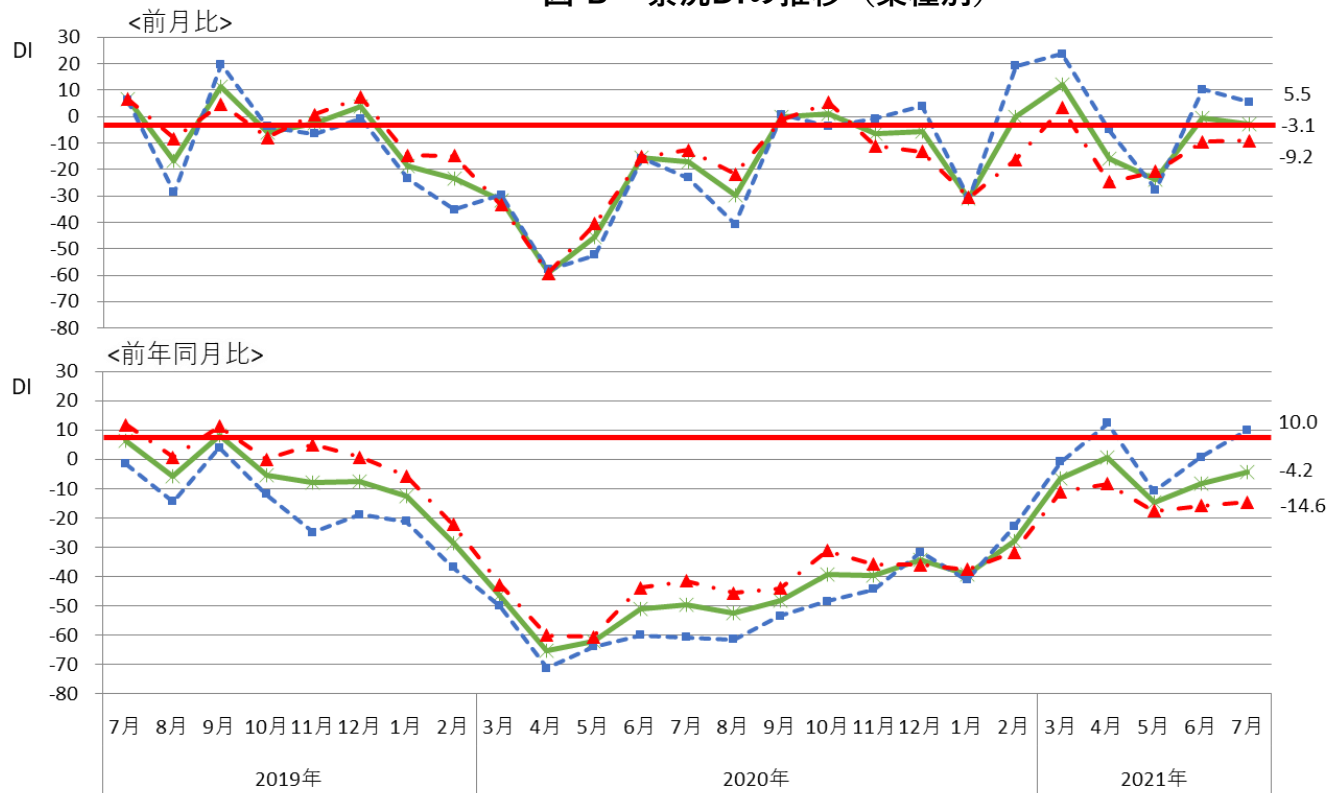


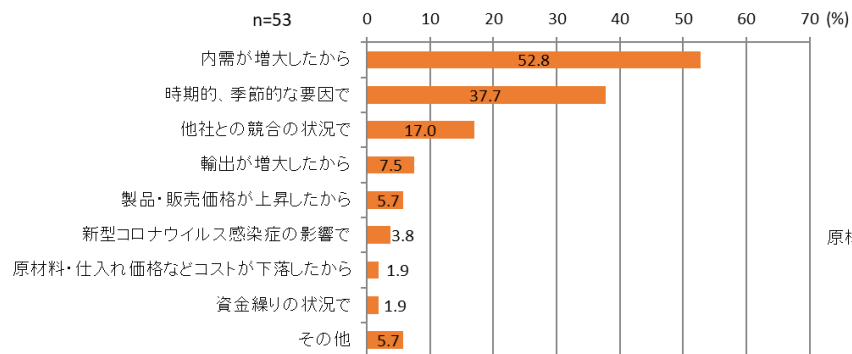
図 B 景況DIの推移（業種別）



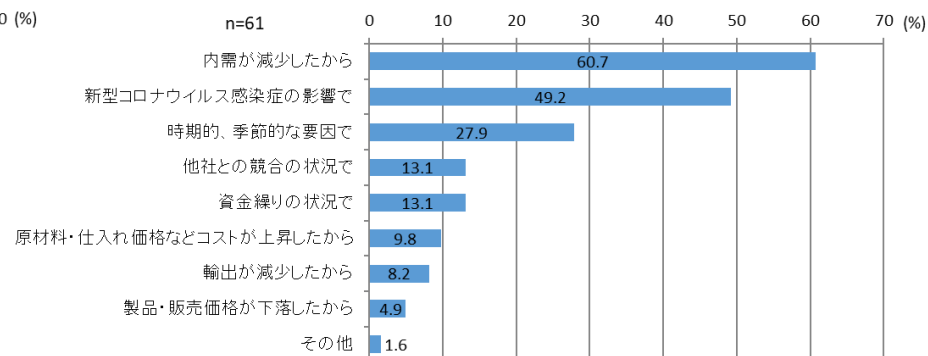
* DI (Diffusion Index) は、「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

図 C 前月比景況変化の理由

<上昇・好転要因>



<下降・悪化要因>



《新型コロナウイルス感染症の拡大によるビジネスへの影響》図D

< 全体 >

- 「マイナスの影響が持続」は55.8%、「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は16.8%となった。
- 「マイナスの影響が今後生じる可能性がある」は16.8%となった。

< 業種別 >

- 「マイナスの影響が持続」は、製造業で53.8%、非製造業で57.2%となり、非製造業が3.4ポイント上回った。
- 「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は、製造業で23.6%、非製造業で11.8%と、製造業が11.8ポイント上回った。
- 「マイナスの影響が今後生じる可能性がある」は、製造業で14.1%、非製造業で18.6%と、非製造業が4.5ポイント上回った。

< 規模別 >

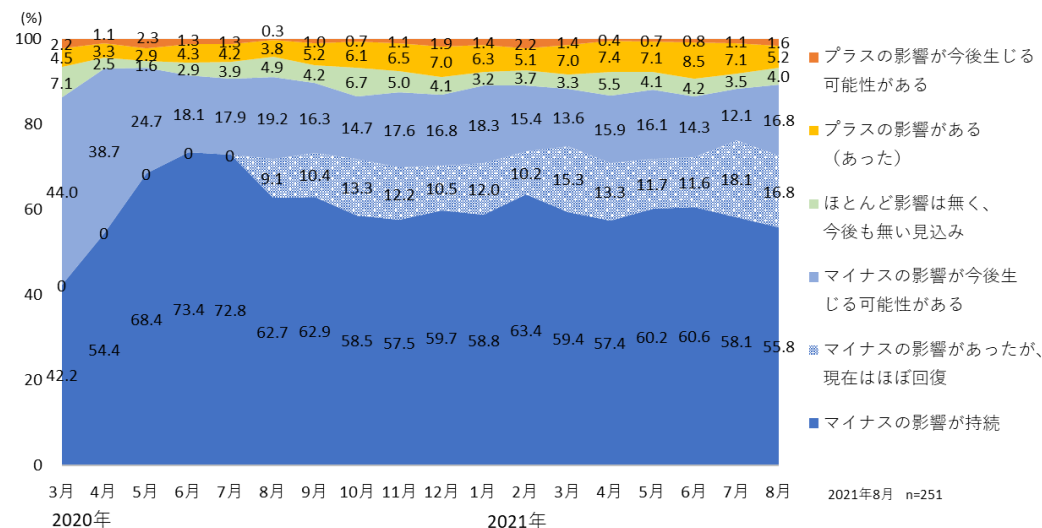
- 「マイナスの影響が持続」は規模が小さいほど割合が高くなり、0-5人で61.6%、6-20人で60.4%と、6割を超えた。
- 「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は、規模が大きいほど高く、101人以上で29.4%となった。一方、「マイナスの影響が今後生じる可能性がある」は、0-5人で21.0%と最も高く、21-100人で11.8%と最も低くなった。

図D 新型コロナウイルス感染症の拡大によるビジネスへの影響

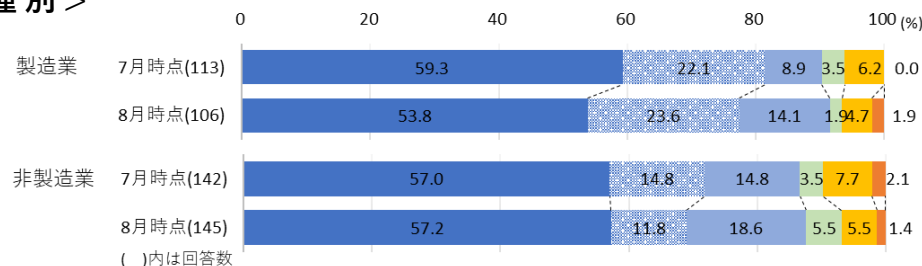
※「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は2020年8月から選択肢に追加。

※「わからない」という回答を除く集計。

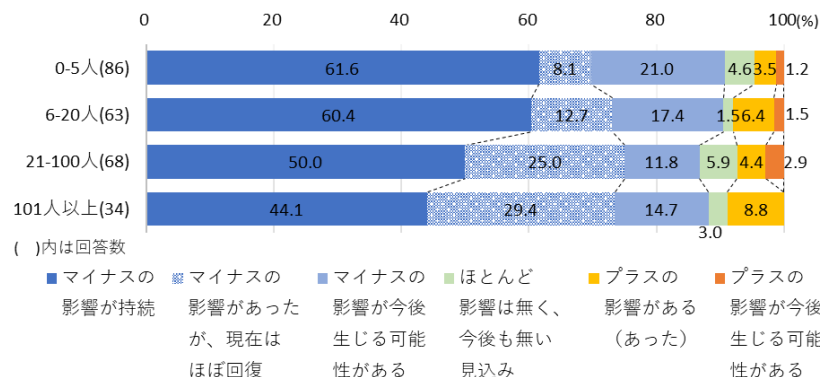
< 全体 >



< 業種別 >



< 規模別 >



《2021年7月売上高の対前年同月比》

図E

< 全体 >

- 7月売上高の対前年同月比をみると、“減少”は、前月から横ばいの49.4%となった。
- 減少率別にみると、「10～20%未満」が17.2%と最も高くなった。また、「50%以上」は3.1%と、調査を開始した令和2年3月以降で最も低くなった。

< 業種別 >

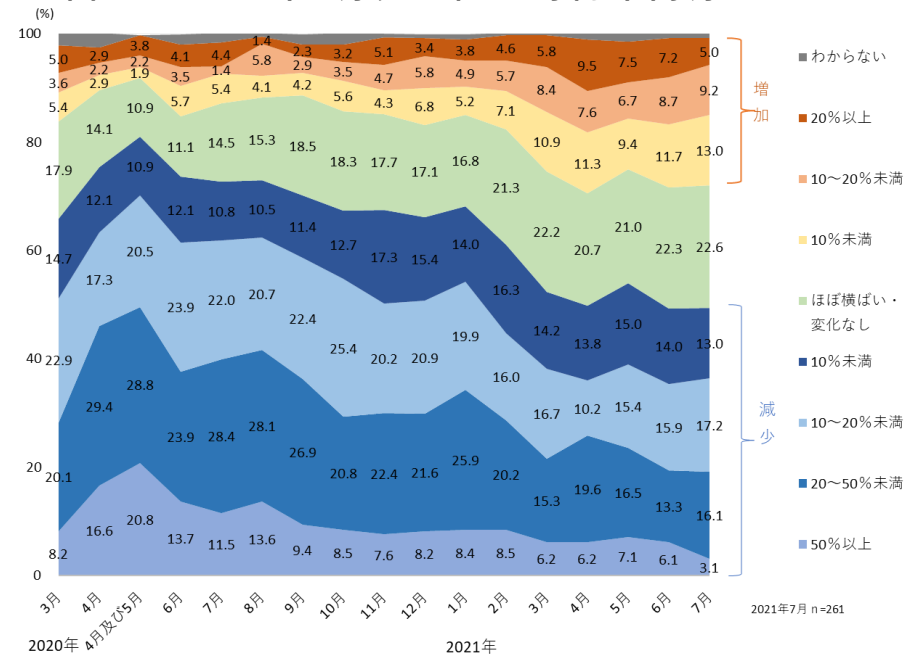
- “減少”についてみると、製造業では、4.1ポイント下降して39.1%、非製造業では2.8ポイント上昇して56.9%となり、非製造業が17.8ポイント上回った。
- 「50%以上」の減少は、製造業で1.8%、非製造業で4.0%となった。

< 規模別 >

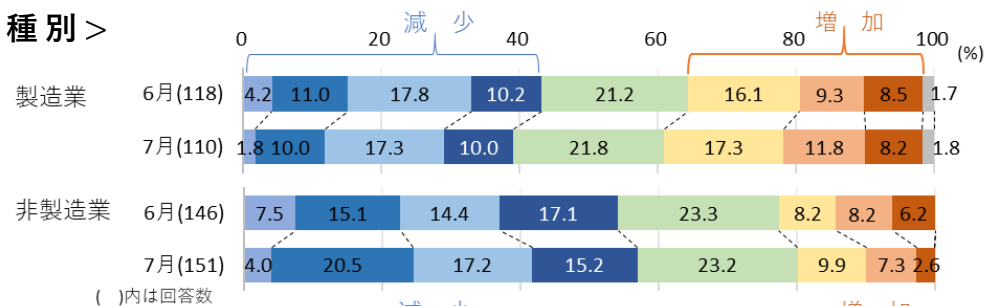
- “減少”についてみると、規模が小さいほど割合が高く、0-5人では60.3%と6割を超え、6-20人では、49.2%と約半数となった。
- 「50%以上」の減少は、0-5人で6.5%と最も高くなった。

< 全体 >

図E 2021年7月売上高の対前年同月比



< 業種別 >



< 規模別 >

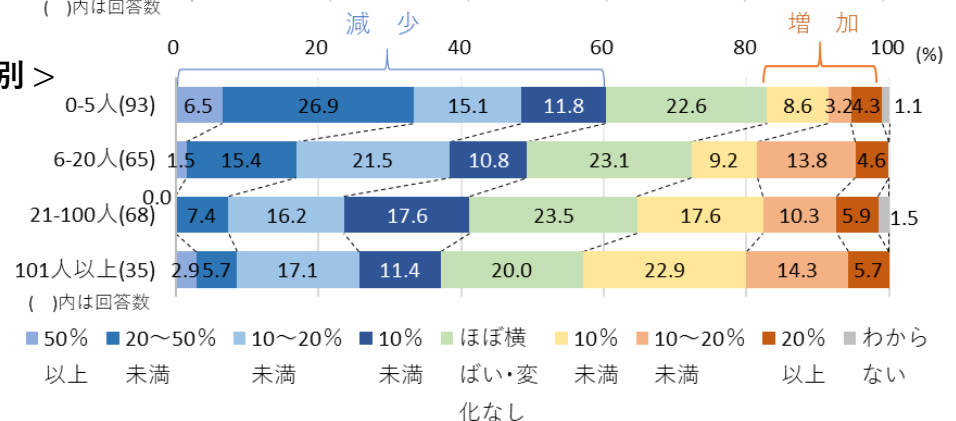
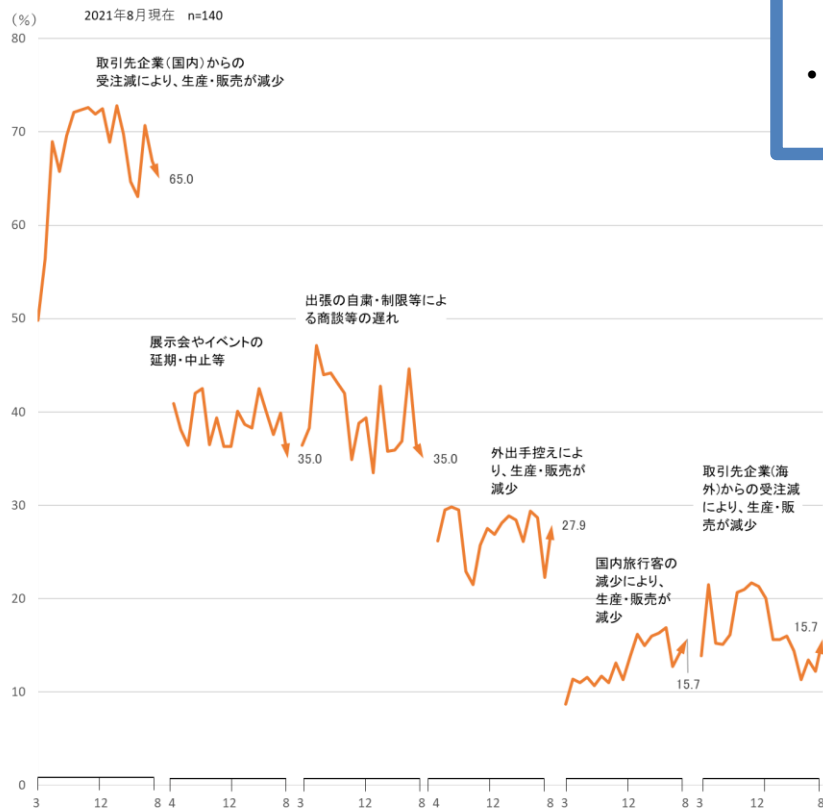


図 F 貴社におけるマイナスの影響（複数回答）

2020年5月時点以降は図 D において、
「マイナスの影響が持続」と回答した
人のみの集計

< 全体・2020年3月～2021年8月の推移 >



《貴社におけるマイナスの影響》 図F

< 全体 >

- 2021年8月時点を見ると、「取引先企業（国内）からの受注減により、生産・販売が減少」が、1.9ポイント下降したものの、65.0%と突出して高くなった。次いで、「展示会やイベントの延期・中止等」および「出張の自粛・制限等による商談等の遅れ」が、ともに前回より下降したものの、ともに35.0%となった。
- 前回調査より比較的变化が大きいものに注目すると、「外出手控えにより、生産・販売が減少」が、5.6ポイント上昇して27.9%となった。
- このほか、「原材料、部品、商品などの代替品調達によるコスト増」は3期連続で上昇し、10.0%となった。

< その他の主な内容 > (各1件)

- 半導体以外の案件がまだ弱い。
- 対面でのカウンセリングや講座が開講できない。
- 提携施設が休館等。
- ロケの中止。
- 顧客や従業員の感染による販売減少。



(月)

《2020年度決算における売上高実績 (対前年度)》図G

< 全体 >

- 20年度実績では、“減少”は前年度より22.8ポイント上昇して58.1%、“増加”は10.8ポイント下降して22.3%となった。
- 減少率別にみると、「20%以上」が25.0%と最も高く、次いで、「10%以上」が21.5%となった。また、「50%以上」の減少は5.8%となった。
- 21年度は、“増加”が30.4%と20年度実績を上回る一方、「ほぼ同水準」が34.2%となり、“減少”は35.4%と20年度実績を大幅に下回る見通し。

< 業種別 >

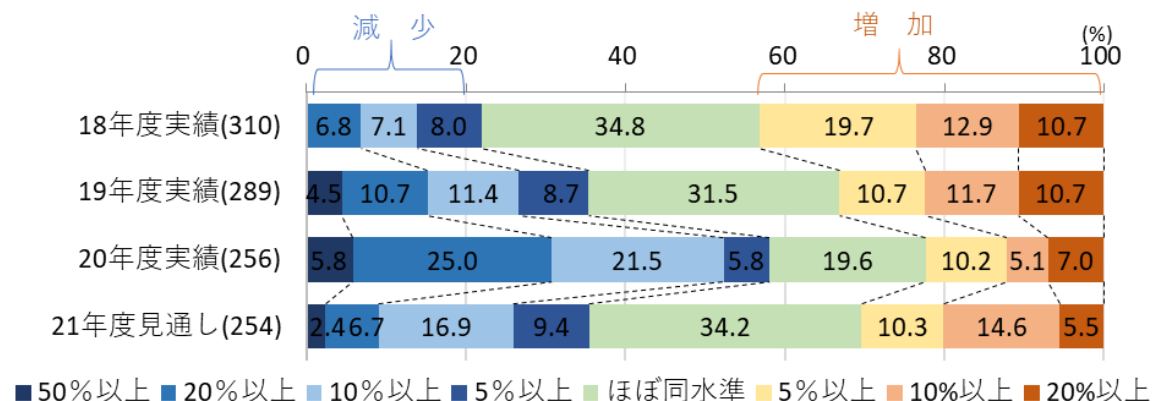
- 20年度実績では、“減少”は製造業で63.1%、非製造業で54.7%で、製造業が8.4ポイント上回った。一方、“増加”は製造業で16.0%、非製造業で26.7%となり、非製造業が10.7ポイント上回った。
- 減少率別にみると、「50%以上」は、製造業で2.8%、非製造業で8.0%となった。
- 21年度は、製造業では、“減少”は28.6%と20年度実績を下回り、“増加”は40.0%と20年度実績を上回る見通し。これに対して、非製造業では、“減少”は40.3%と20年度実績を下回るものの4割を超え、“増加”は23.5%と20年度実績をさらに下回り、依然として厳しい状況が続く見通し。

図 G 2020年度決算における売上高（対前年度）

※「わからない」という回答を除く集計。

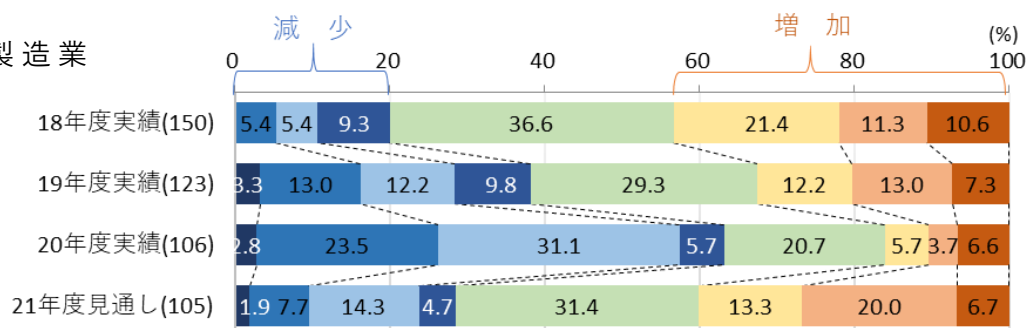
※ 18年度調査では「50%以上の減少」という選択肢はなかった。

< 全体 >

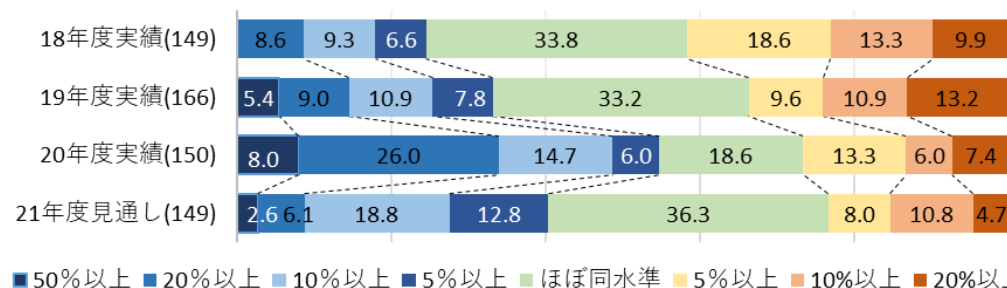


< 業種別 >

◇ 製造業



◇ 非製造業



《2020年度決算における売上高実績 (対前年度)》図G (続き)

< 規模別 >

- 20年度実績では、0-5人で“減少”が前年度より15.6ポイント上昇して54.2%、“増加”が7.9ポイント下降して21.8%となった。また、減少率別にみると、「50%以上」が14.1%と、他の規模より突出して高くなった。
- 6-20人では、20年度実績は、“減少”が19.9ポイント上昇して63.0%となり、他の規模と比べ最も高くなった。“増加”は16.5ポイント下降して16.9%となった。
- 21-100人では、20年度実績は、“減少”が39.0ポイント上昇して62.1%、“増加”が17.9ポイント下降して22.7%となった。“減少”、“増加”とも、他の規模と比べ変化が最も大きくなった。
- 101人以上では、20年度実績は、“減少”が17.4ポイント上昇して51.5%、“増加”が3.6ポイント上昇して33.3%となった。
- 21年度は、いずれも“減少”が20年度実績を下回る見通しであるが、規模が小さいほど依然として割合が高く、0-5人で39.6%となった。“増加”は、規模が大きいほど高く、101人以上で54.5%と半数を超える一方で、0-5人は20年度実績を下回り、厳しい状況が続く見通し。

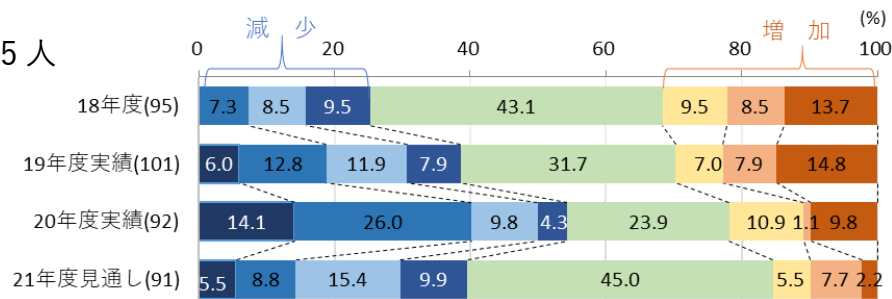
図 G 2020年度決算における売上高(対前年度)(続き)

※「わからない」という回答を除く集計。

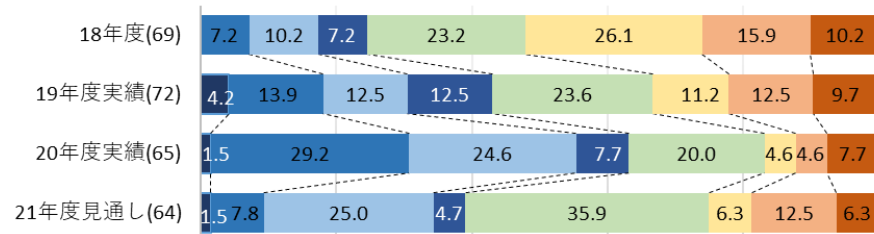
※ 18年度調査では「50%以上の減少」という選択肢はなかった。

< 規模別 >

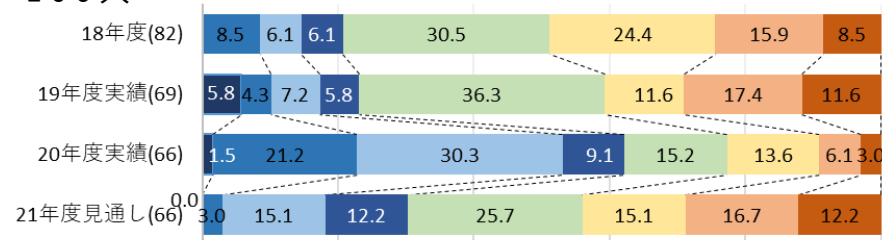
◇ 0-5人



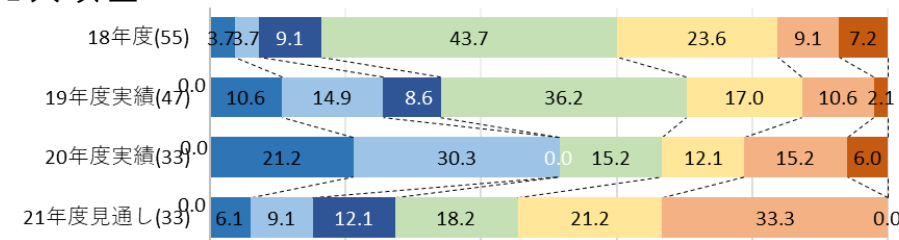
◇ 6-20人



◇ 21-100人



◇ 101人以上



■ 50%以上 ■ 20%以上 ■ 10%以上 ■ 5%以上 ■ ほぼ同水準 ■ 5%以上 ■ 10%以上 ■ 20%以上

《2020年度決算の営業利益》図H

< 全体 >

- 20年度決算の営業利益における黒字／赤字の状況は、「黒字」が2年連続で下降して47.1%、「赤字」が2年連続で上昇して33.0%となった。
- 前年度との比較では、「悪化」が10.7ポイント上昇して51.0%となり、半数を超えた。「改善」は8.6ポイント下降して22.2%となった。「横ばい」は、2.0ポイント下降して26.8%となった。

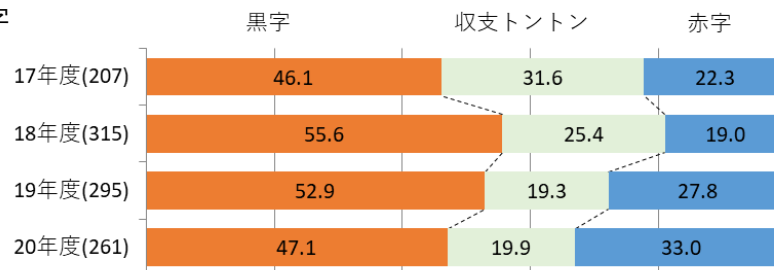
< 業種別 >

- 「黒字」は、製造業では前年度より3.5ポイント下降して50.9%、非製造業では7.4ポイント下降して44.4%となり、製造業が6.5ポイント上回った。「赤字」は、製造業で横ばいの30.0%、非製造業で8.6ポイント上昇して35.1%となり、非製造業が5.1ポイント上回った。
- 前年度との比較では、「悪化」は製造業で10.7ポイント上昇して55.5%、非製造業で10.6ポイント上昇して47.7%となり、いずれも約半数を占めた。また、「改善」は製造業で5.9ポイント下降して24.5%、非製造業で10.7ポイント下降して20.5%となった。

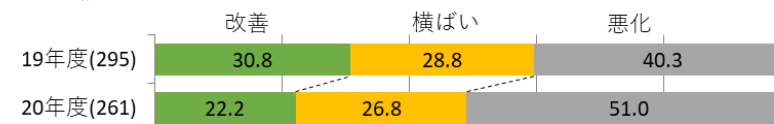
図H 2020年度決算の営業利益

< 全体 >

黒字/赤字



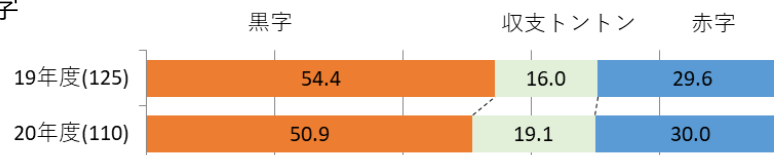
前年度との比較



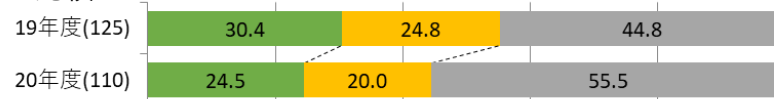
< 業種別 >

◇製造業

黒字/赤字

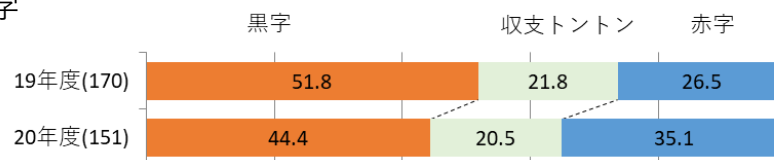


前年度との比較

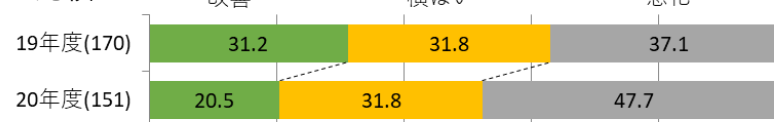


◇非製造業

黒字/赤字



前年度との比較



《2020年度決算の営業利益》図H (続き)

< 規模別 >

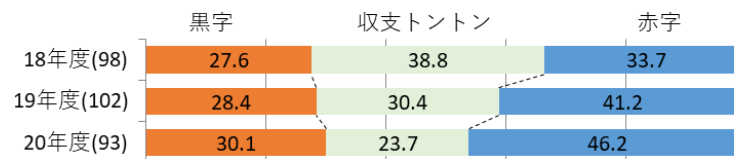
- 黒字／赤字の状況をみると、「黒字」は規模が小さいほど割合が低くなった。0-5人が30.1%となったのに対して、101人以上では74.3%となり、その差は44.2ポイントと大幅な差が生じた。
- 「赤字」は規模が小さいほど高くなった。21-100人、101人以上では約14～15%となったのに対して、0-5人、6-20人では約43～46%となり、その差は最大で31.9ポイントとなった。
- 黒字／赤字の変化をみると、「赤字」は0-5人、6-20人、21-100人では、2年連続で上昇となった。「黒字」は0-5人で2年連続の上昇、6-20人で2年連続の下降となった。なかでも、6-20人では、前年度より「黒字」が22.4ポイントと大幅な下降、「赤字」が15.7ポイントと大幅な上昇となった。
- 前年度との比較（改善/悪化）では、いずれも「悪化」が約半数となり、21-100人で54.4%と最も高くなった。「改善」はいずれも約3割を下回り、特に、6-20人では15.4%と最も低くなった。
- 改善／悪化の変化をみると、「悪化」はいずれも上昇し、「改善」は0-5人を除き、下降した。特に21-100人では、「悪化」が22.0ポイントの大幅な上昇、「改善」が20.2ポイントの大幅な下降となった。

図H 2020年度決算の営業利益（続き）

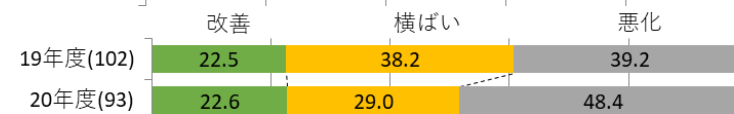
< 規模別 >

◇0-5人

黒字/赤字

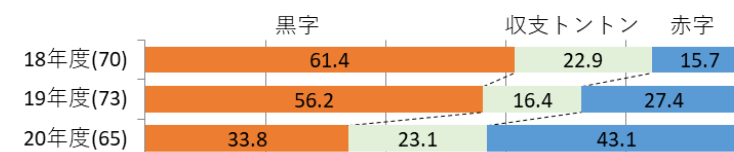


前年度との比較

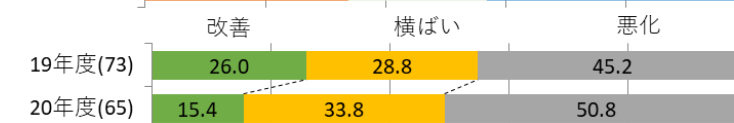


◇6-20人

黒字/赤字

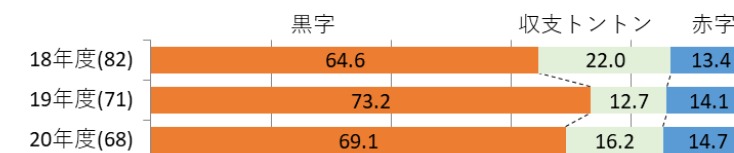


前年度との比較

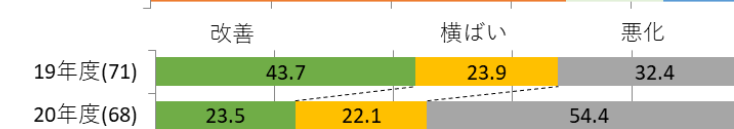


◇21-100人

黒字/赤字

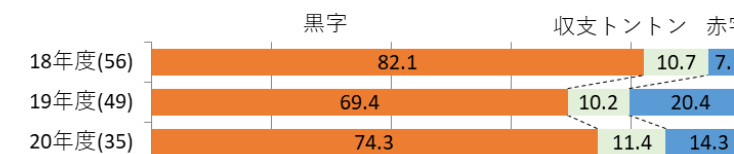


前年度との比較

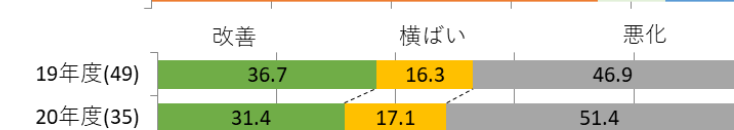


◇101人以上

黒字/赤字



前年度との比較



《資金繰りDIの推移》図N

<全体>

- 資金繰りについて、「順調（良い）」の割合から「逼迫（悪い）」の割合を差し引いた資金繰りDIは、前回から横ばいの20.7となった。

<業種別>

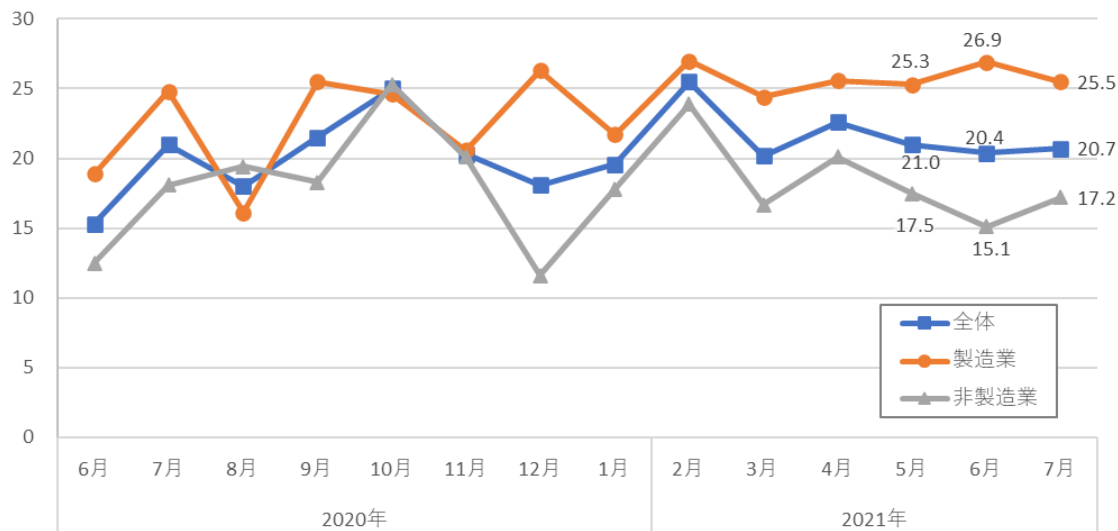
- 製造業では、DIは、前回から1.4ポイント下降して25.5となった。
- 非製造業では、DIは、2.1ポイント上昇して、17.2となった。

<規模別>

- 0-5人では、DIは、4.8ポイント上昇して-9.7ポイントとなった。3期ぶりに上昇したものの、依然としてマイナス値となった。
- 6-20人では、DIは、6.2ポイント下降して18.4となった。
- 21-100人では、DIは、7.8ポイント上昇して51.5となった。
- 101人以上では、DIは、5.6ポイント下降して45.7となった。

図 I 資金繰りDIの推移

<全体・業種別>



<規模別>

